

信州イスラーム世界勉強会 12月定例会
「アラビア書道の宇宙：出会う、知る、観る、習う」
2025年12月6日(土)、7日(日)
松本市美術館

12月6日 講演・作品鑑賞・対談 14:00～17:30

第1部 講演

本田孝一 日本アラビア書道協会会長

・書をかくときは、フアド Fuad Honda と名乗っています。フアドは「心」という意味。筆が好きで、いつも、いまも、肌身離さずもっています。風呂にはいるときも持つて入ります。
・かつて松本を恨むことがありました。というのは、大学卒業後職につかず惑っていたときに、雑誌で松本民芸家具の記事をみて、創始者である池田三四郎氏(1909～99年)を訪ね、弟子にして下さいとお願いしたのですが、門前払いでした。親の紹介状を持ってこいというので持つて行ったら、弟子入りするのは 15～16 歳の手先が柔らかい時、20 歳台から始めるならカンナが使えるようになるのに 20 年、家具を作れるのに 20 年、独創的な仕事ができるのはそれからだ、と言われて、諦めました。それで松本に恨みを抱いたのですが、今回、三四郎さんの孫にお会いでできることになった。人生は実に楽しい。

・配布資料は国際アラビア書道コンテストを受賞したとき(1990年)の賞状で、そこに書道家ヤークート・アルムスタアスィミー(Yāqūt al-Musta'simī, 1298年没)の絵が描かれている。1258年にモンゴル軍がアッバース朝の首都バグダードを征服し、大量の書物をティグリス川に放り投げ、そのために川がインクの青色に染まったといわれるが、そのときも彼は、筆をとって書を書き続けたという。

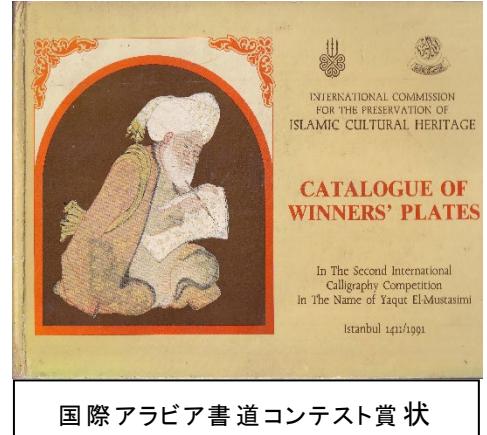
・イブン・ムクラ(Ibn Muqla, 885～940年)という書家は、手を切られてもかき続けたともいう。展示している『イスラム書道芸術大鑑』(1996年 9ページ参照)は、さきの国際コンテストの賞品としてもらった本の翻訳だが、そういう書家のプロフィールも書かれている。

・イスラムにおける書道について、配付資料を使って、話します。
(コーラン日本語訳:当日配付資料記載の訳を転載。)

①『コーラン』フッスイラト章 53

سُرِّيْهِمْ آيَاتِنَا فِي الْأَفَاقِ وَفِي أَنْفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ الْحَقُّ

「我ら(=神)は彼らに神の印(しるし)を地平線の中に、そして彼らの心の中に示されるとであろう。彼らに神が真理であることを明らかにするために。」



国際アラビア書道コンテスト賞状

神は1人称複数の「われら」で語りかける、神はすべてを含みこんだ存在なのです。その神が、神の印(アーヤ)を、「地平線」の中に、「心」のなかに示す、という。とても好きな章句で、私は砂漠の地平線を思い浮かべる。砂漠は、体がめりこんでしまうような柔らかい砂丘と、水分で固まつた硬い所とがある。西洋哲学の大家カントは、『純粹理性批判』のなかで、「満天の星」と「心」ということを言っているが、それとも通じている。

②『コーラン』婦人の章 17節

يَا أَيُّهَا النَّاسُ قَدْ جَاءَكُمْ بِرْهَانٌ مِّنْ رَبِّكُمْ وَأَنْزَلْنَا إِلَيْكُمْ نُورًا مُّبِينًا.

「人々よ、主からの真理の確証がすでにたらされた。我ら(=神)は明らかな光をあなた方に下したのである。」

「真理の確証がすでにたらされた」と過去形で語る。それは、「光(ヌール)」だという。

③『コーラン』凝血の章 1~5節

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ / خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ عَلْقٍ / اقْرَأْ وَرَبَّكَ الْأَكْرَمُ / الَّذِي عَلِمَ بِالْقَلْمَ / عَلِمَ الْإِنْسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ

「読みなさい。創造されたお方、あなたの主のみ名において。—凝血から人間を創られた。読みなさい。あなた方の主は最高に高貴であられ、筆を教えられたお方。人間に未知なることを教えられたお方である。」

コーランがムハンマドに下った場面で、そこでは、神のことを「筆(カラム)を教えた方」と表現しています。

④『コーラン』、筆の章1

نَ وَالْقَلْمَ وَمَا يَسْتُرُونَ

「ヌーン。筆にかけて。また書かれているものにかけて誓う。」

つぎは、『コーラン』筆の章1節、で、「筆にかけて。また書かれているものにかけて誓う」という。

⑤『コーラン』ルクマーンの章 27節

وَلَوْ أَنَّمَا فِي الْأَرْضِ مِنْ شَجَرَةٍ أَقْلَامٌ وَالْبَحْرُ يَمْدُدُ مِنْ بَعْدِهِ سَبْعَةُ أَيْمَرٍ مَا نَفِدْتُ كَلِمَاتَ اللَّهِ

「仮に地上のすべての木が筆であって、また海が(墨で)、その他に7つの海をそれに加えても、神の御言葉は(書き)尽くすことはできない。」

「地上のすべての木が筆であっても、また海が(墨で)7つの海を加えても、神の言葉は書き尽くすことはできない」という。コーランの全体は、聖書のような物語形式ではないので、おもしろくは

ないのですが、部分、部分にはつとる言葉があります。
つぎの二つは、書道に関して、伝わっている言葉です。

⑥ **الخط هدى روحانية ظهرت بالله جسمانية.**

「良書は真理に明瞭さを増加させる」(第4代カリフであるアリーの言葉とされる)

⑦ **الخط هدى روحانية ظهرت بالله جسمانية.**

「書道は、肉体という道具で表現された靈的技術である」

(ヤークート・アルムスタアスイミーの言葉)

書道にあたるアラビア語は、ハット khatt で、線、ラインという意味です。それが、「靈的な技術（ハンダサ）」だというのです。靈的（ルーハーニー）と同じ語根をもつ言葉には、リーフ（風）、ラー（出かける）といった単語があります。日本では、「書は人なり」と言い方がありますが、イスラムでは、そうは考えない。書は、神が示した印なのです。

⑧ 最後は、スペインの芸術家、ピカソの言葉です。

When wanting to reach a final end in drawing, I realized that Islamic calligraphy had started it before.

あの独特な、女性などの絵を描いた人です。英文を示しましたが、絵画における最終目標を望んだとき、イスラム書道がすでに、その最終目標に向かい始めていた、というのです。ヨーロッパの絵画とイスラムの書道とが、同じ目標に向かっているというのです。

第2部 作品解説

本田孝一&山岡幸一（日本アラビア書道協会事務局長）

01 青の砂漠『コーラン』ルクマーン章 全章

砂漠の砂の上に立ったときの光景です。
さきほどのコーラン①で紹介した「地平線」の章をかいたもので、私の好きな章です。
砂漠の風紋が、文章（印）のようにみえました。下地は、アクリル絵の具で色をつけ、
その上にコーランの章句をかいていきます。文字は7~8の書体を使っています。この光
景は、夜明け前の砂漠、午前5時ごろの、わずか1分間の景色です。



02 文字の星雲『コーラン』光の章 35~46節

「神は、天と地の光なり」と述べます。これは、宇宙の中心です。渦巻きの中心に、この句を書き、章句が外側に渦巻くように広がっていきます。

04 開卷章『コーラン』の最初の章です。地平線からの光をイメージしました。スルス体という書

体で書きました。

07 神の顔(1) 『コーラン』 牝牛の章 115 節

「東も西も神のもの」で、どこを向いても、神の顔がある、という章句を、右と左に、同じ文章を左右対称に、逆さに、左手と右手をつかって、書いています。

08 神の顔(2) 『コーラン』 物語の章 88 節

「神の顔のほか、すべては消滅する、神の顔のみが残る」、という章句を描いたものです。

09 神の顔(3) 『コーラン』 慈悲深きお方の章 26～27 節

神は「威厳と栄誉の持ち主」、即物的な言い方です。原画は大英博物館にあります。

12 青の波動 『コーラン』 蜘蛛の章 41～69 章

13 深海に燃える金輪 『コーラン』 ルクマーン章 25～31 章

「諸天と地のすべてのものは神に属します」。宮澤賢治を想いおこします、私は、賢治にあこがれています。

14 慈雲 『コーラン』 慈悲深きお方の章 1～29 節

神は人間にバヤーン(印、確証)を与えた、草(ナジュム)も木(シャジャル)もひれ伏す、礼拝する、というのです。柔らかなペルシア(ナスターイク)書体で書きました。

20 緑の宇宙 『コーラン』 雌牛の章 225 節

「神の玉座は諸天と地にはてしなく広がり」、天を満たしている、というのです。

22 上昇する文字の岩山 『コーラン』 敖すお方の章 57～68 節

シナイ半島の、木一本もない、シナイ山のイメージです。その岩山に文字が刻まれていて、写真を撮って、日本の学者に解読してもらいました。あるとき、アラブ首長国連邦のフジャイラ国王の招待をうけてアラビア語で講演したことがあります、5月なのに灼熱の50度でした。

33 神の顔(4) 『コーラン』 物語の章 88 節

(9頁参照：白水社「本田孝一作品集」の表紙に
載されています。)

24 赤の砂漠 『コーラン』 創造者の章 9～35 節

「神は風を送る方」、真っ赤と真っ黒、これは、
夕焼けの砂漠の砂丘のイメージです。

参考：東京外国語大学にある「青の砂漠・赤の砂漠」の
キャンパス・アート



<https://www.tufts.ac.jp/tufstoday/topics/tufsfeatured/23112201.html>

質疑

三浦(勉強会代表)： 本田先生の作品の大きさはどのくらいですか、どうやって、これほど細かい文字を書くのでしょうか。

本田： 幅 3 メートルぐらいあります。「赤の砂漠」の作品では、砂漠の砂丘の波の一枚一枚が別々の紙です。それに下地の色をアクリル絵の具で塗り、そのうえに文字を書いていきます。その一枚一枚を自分で合成した糊で、台紙に貼り合わせていきます。

第3部 対談

本田孝一 vs 堀内 正樹(元成蹊大学教授、文化人類学)

堀内： 私は諏訪市の生まれで、諏訪清陵高校の卒業です。本田さんと同じ東京外国語大学アラビア語学科に入学して、21歳のとき、すでに卒業していた本田さんたちと一緒に、アラビア砂漠を体験しました。その後文化人類学に出会い、モロッコやシナイ半島で現地調査をしてきました。ところで、作家の沢木耕太郎さんが、本田さんのことをお書きになられていますね。

本田： 沢木さんは親類で、『彼らの流儀』という短編集のなかの「砂漠の雪」という章で私の砂漠の経験を書かれました。さて私の人生には、3つの人生の「偶然」があり、それぞれが次の行動につながりました。それを皆さんに話してもいいですか。一つ目はサウジアラビアに行ったこと、二つ目は結婚、三つめはある著名人との出会いです。

第一は大学のときで、当時大学紛争があって、6月の卒業でした。卒業して遠洋漁業の会社に就職したのですが、会社が肌に合わず、すぐに辞表を出して銀座の裏通りを歩いていたら、アラビア語学科の後輩(高井清仁さん)に遭い、サウジアラビアで地名調査のアルバイトがあるというので行くことにしました。これが砂漠との出会いになります。第二は、サウジアラビアで2年働いて一時帰国したとき、歯の治療で歯科にいくためにバスに乗ったら、高校の同級生が乗っていて、運命の出会いだと思って、2ヶ月で結婚し、9月にはサウジに行きました。第三は、1990年代にカタルから招待をうけ、初めての個展をやりました。このとき、初老の来訪者のグループのひとりがインドのハイデラバードの大富豪で、私の作品に関心をもち、大英博物館やメトロポリタン美術館に紹介してくれました。この人との出会いがなければ、海外に私の作品がこんなに出ていくことはなかつたでしょう。

渡辺(勉強会事務局長)： 松本との縁ということでは、松本での民芸運動は、松本民芸家具の池田三四郎さん、この方は6人兄弟の3番目でした。他にも、型染の三代澤本寿(1909-2002年)さん、松本民芸館を創った「ちきりや」(中町に現存)の店主丸山太郎さん(1909-1985年)といった方々がおられました。たまたま私の会社のスペースを、松本民芸家具(中央民芸)のショールームの品物の倉庫に貸していて、今回本田先生と松本民芸家具との縁をうかがい、あす、三四郎さんのお孫さんとの面会をセッティングしました。

本田： 東京外国語大学に、私の作品(「青の砂漠」「赤の砂漠」)が大きく陶板に複製されて展示されていますが、それを企画した中島嶺雄(元)学長は、松本深志高の出身です。

堀内： 松本民芸家具への弟子入り、ギター演奏や書道の実践には、本田さんの芸術への関心というつながりがあるのですか。

本田： 芸術というより、僕は木を削るのが好きで、またギターやリュートのような木の板を貼り合

せた楽器の弦の響きが好きなのです。

堀内：1970 年代中頃、本田さんと一緒にサウジアラビアの砂漠を調査したときの写真をいくつかみなさんにお見せします。

本田：（調査スタッフ全員の集合写真） メルセデスの大型タンクローリー車とトヨタのジープの前でとった写真ですね。全員の名前を覚えています。中央にいるのが自分で、アラブの服を着て、アラブの帽子を被っています。

堀内：本田さんは、アラブ人になりきっていますね。

本田：（別の写真） この写真のサアド・アティークという人物はサウジの石油鉱物資源省の人で、彼からはじめて書道を習いました。

（ベドウィンのテントで） テントでは、まずお茶とコーヒーがでて、それから食事がでて、そのあとにもう一度（煮出した）コーヒーがでます。夜は結構寒く、火をたいて暖まります。

（ラクダと一人旅） ひとりで砂漠のワーディ（涸れ川）を何日も調査をしました。

堀内：（別の写真） この写真の高井清仁さんという方は、アラビア語がとてもできたけど、わりと早く亡くなりました。後日その高井さんの奥さんを本田さんと二人で訪ねたとき、私が本田さんに「いつ書道の作品を書くのですか」と聞いたら、本田さんは「明け方に紐のようなものがおりてきて、引っ張り上げられるようにして書くんだ」と答えたのが今でもとても印象に残っています。

本田：その答えは覚えていないが、たしかに自分では予期できない、自分では準備できない、神の力が働くことがあると思います。

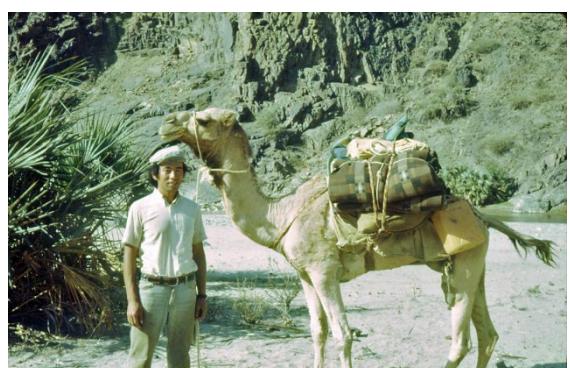
堀内：それに関連するかどうかわかりませんが、「イスラム教は一神教で、多神教の日本とは対照的だ」とよく言われますが、私はじつは違わないところがあると思います。

本田：僕も先に言ったように宮澤賢治が好きで、そのようになりたいと思っていました。

堀内：作家の五木寛之が 90 歳ちかくになって、浄土真宗は一神教のイスラムのようなものだとエッセイのなかで書いています。阿弥陀様とアッラーと同じように考えて良いだろうと彼は言っているのかな、と読みました。

本田：『コーラン』でも、どこにも神の顔がある（牝牛章 115 節）、といっていますね。

堀内：浄土真宗では、「南無阿弥陀仏」という言葉、そしてその文字を尊ぶそうです。自分も歳をとつていつ死んでもおかしくないが、人間はいつどこでどのように死ぬのかだれにもわからない。身のゆくえは神あるいは阿弥陀様にお預けするしかないのではないか。もともと「イスラーム Islam」と



いうのは、「預ける、引き渡す、委ねる」という意味です。浄土真宗の「帰命」(すべてを阿弥陀仏に預ける、南無と同義)と同じかもしれない。板垣先生が示された、7世紀からの中東発の「超近代性(スーパー・モダニティ)」は、13～14世紀(中国の南宋、日本の鎌倉時代)には東アジアにも見られたわけですから、イスラムと帰命が結びついても唐突ではないと思うんです。

【注記】超近代性とは、「都市化・商業化・政治化/個〔体・物・いのち〕の尊厳・合理主義・普遍主義/自由・平等・人類愛〔バヌー・アーダム〔アダムの子孫〕意識〕の強調/公正と安全の社会契約/真善美の神聖価値/〔理性的・靈性的〕知識社会形成と合議〔シューラー〕/ジェンダー・「族」的結合〔民族・種族・部族・氏族・家族〕・諸宗教の対等性と連帶/宇宙の万物万象の「神〔創造主〕の徴(しるし)性」/を基調とする<超〔時代を超える、歴史を貫く、未来の充実をめざす原理たる〕近代性」のこと(板垣雄三「<超近代性 Super-modernity>研究の歩みとその課題探求の現局面」『土着的近代』創刊号、2023.4、pp.5-6より)

本田：イスラームの語根、語義は「平和」です。

堀内：(写真) これは、モロッコのマドラサ(イスラム学校)で子供がコーランを覚える光景です。先生が板の上に書いたお手本の文字を声を出しながらなぞっていて、写経といつてもいい。

本田：そう、写経です。私はアリフの文字(り)を最も美しく書こうとするのですが、でもお手本をなぞっただけではダメなんです。そう思って書いていると、書けちゃったということがある。それは自分の意志を越えています。

堀内：それは一回限りのこと、つまり諸行無常ですか？

本田：いいえ、次は自分のものになって、蓄積されていきます。じつは昨日はミームという文字(μ)と格闘していました。

堀内：ところで、肉筆とそれを写真に撮ったものとは、違うものですか。

本田：違います。

堀内：そうであれば、写真や活字のような変わらないものは偽物ということになりますか。

本田：書は一回一回違います。書は、毎日やって飽きません。

堀内：私はアラブ音楽のなかのアンダルシア音楽というのを学んだことがあるのですが、楽譜が読めてもそれは音楽ではないと第一人者の演奏家から言われました。演奏すること、音をだすことに意味があるのだそうです。だから学者や評論家のやっている理論なんていうのは、限界のある人為的なものなのかもしれません。

本田：自分はギターをずっとやってきました。砂漠でどんな音ができるだろうかとおもってやってみたら、音にならない。反響しないのです。「書は音のない音楽」だと、言ってきました。視覚的にみた音楽です。バッハの音楽を聴いていると、書道を想います。

堀内：五木寛之も書いていますが、預言者ムハンマドも、お釈迦様も、イエス様も、その教えを自分で文字にせず、弟子に書かせることもせず、自分の声で目の前の人々に語りかけました。直接的な語りが本質だったとすれば、語りと音楽は不即不離ですから、文字もまた写真や活字ではな



く、直接的でなければならないのか。

三浦：本田先生が、書と出会ったのはいつどこですか？

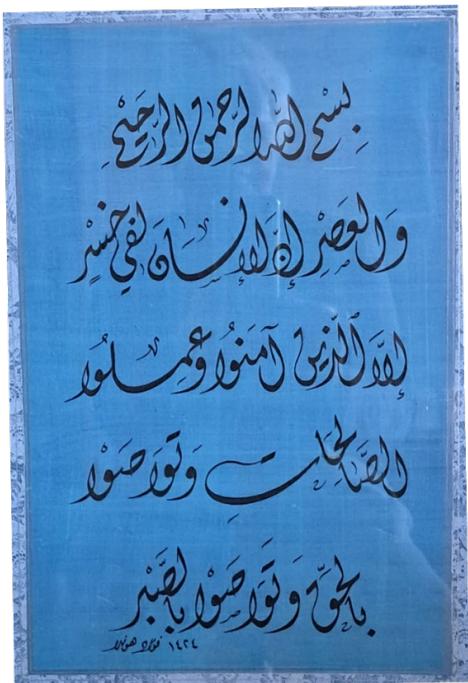
本田：サウジアラビアの砂漠で調査をしていたとき、夜、闇のむこうに光がみえました。近づいてみるとネオンサインで、アッラー（**ﷻ**）の文字が示されていて、美しいと思って、書を習い始めました。あとはほとんど独学です。

堀内：まだ話したいことはたくさんあるのですが、すでに予定時刻を大幅に超過しているので、今日はこのあたりで終わりにします。ありがとうございました。



【講演会点景】

会場に展示された、本田孝一先生の実作品、関連書籍



コーラン 章 103 アル・アスル(時間)
本田孝一先生作／板垣雄三先生蔵

日本語訳

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1. 時間にかけて誓う
2. 本当に人間は喪失の中にいる。
3. 信仰して善行に勤めしみ、互いに真理を勧めあい
また忍耐を勧めあう者たちの他は。

コーラン 章 103 アル・アスルの詠唱は以下の URL
QR コードから



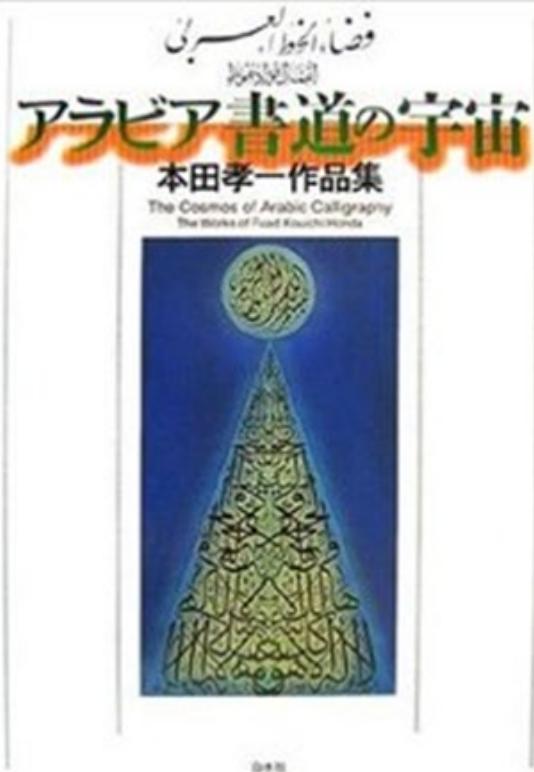
<https://www.youtube.com/watch?v=BBBqnXijiVI>

イスラム書道芸術大鑑
イスラム歴史・芸術・文化研究センター【編】
本田 孝一【訳・解説】
平凡社(1996年/7月)



トルコのIRCICA(イスラム歴史・芸術・文化研究センター)から発刊されている アラビア語版『ファンヌ・ル・ハット』(「書道芸術」)の全訳である。本田先生による解説文付。一冊 6 万円の豪華本だが既に絶版。国立国会図書館などで閲覧することができる。

アラビア書道の宇宙 本田孝一作品集
白水社(2006年9月)



本田孝一先生の作品集。講演でも紹介された作品が掲載されています。

12月7日(日) 9:30~12:30
「アラビア書道の宇宙:習う」 松本市美術館 講座室



書道講習風景



アラビア書道の筆（講演の中でも言及されているカラム【قلم】。本田先生作。竹の採取・乾燥もご自身で行い、筆も一本、一本削られているとのこと。



本田先生に書いていただいた
「信州イスラーム世界勉強会」のロゴ！
勉強会の会宝として大切に使わせていただきます。

動画

本田先生による「ロゴ」作成の動画(7:32)
<https://x.gd/ICfTy>



講座終了後の記念撮影

前列右から
三浦徹（信州イスラーム世界勉強会代表）／
本田孝一先生／板垣雄三先生／
山岡幸一先生／渡辺（勉強会事務局）